



はらじゅくかわら版

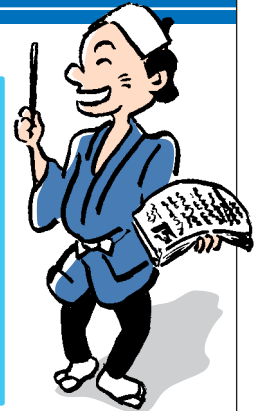
独立行政法人 国立病院機構

横浜医療センターの理念

私たちは、患者さまの人権を尊重し、思いやりの心をもって安全で納得していただける**患者様中心の医療**を目指します。

私たちは、急性期の地域医療を基盤として質の高い総合的な専門医療を提供すると共に、関係医療機関と密接な連携をもつ**地域完結型医療**を目指します。

私たちは、健全な病院経営を心がけ、患者様がより良い医療が受けられ、**地域で選ばれる病院**になるべく日々努力していきます。



独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター附属横浜看護学校

第16号 目次

横浜医療センター附属横浜看護学校開校	1
就任挨拶	2
地域医療連携	
病診連携施設紹介	3
地域医療連携室から	
ー横浜市南西部地域中核病院としてー	4
お知らせコーナー	
医療安全管理室より	5
検討会・研究会の開催	
クリティカルパス委員会の1年間の報告	6
シリーズ	
気になる病気ー子宮癌検診のすすめー	7

職場紹介ー内科/手術室	8
行事等紹介	
看護学校卒業式/医師の人事異動	9
患者数の動向/編集後記	10
外来担当医表	11

発行 月：平成19年4月
 発行 行：独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター
 広報委員会
 発行責任者：高橋 俊毅
 住 所：横浜市戸塚区原宿3-60-2
 電 話：045-851-2621
 F A X：045-851-3902
 U R L：<http://www.hosp.go.jp/~yokoham/>

横浜医療センター附属横浜看護学校開校



～看護学校の再出発にあたって～



看護学校長（病院長） 高橋 俊毅

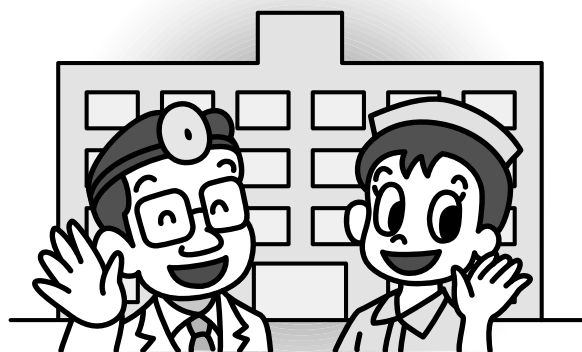
4月から学校は独立行政法人国立病院機構横浜医療センター附属横浜看護学校と名称を少し変えて1学年定員80名の大型校として新たな船出をします。

3月6日の第42回生の卒業で45年前の開校以来1,555名の卒業生が巣立ち全国各地で活躍しています。その輝かしい伝統を継承し、より充実した学校になるべく決意を新たにしています。新しい学校は体育館や階段教室形式の講堂、図書室やIT教育室などを持ち、まだまだ完璧とはいえませんが教員数も増加し、学生の教育環境は格段に改善され、より高いレベルの看護師養成の基盤は整備されたということになります。

国立病院機構としては神奈川県下唯一の学校となりますので教育には県下6カ所の病院が参加し、結核、重症心身障害児、脊髄損傷、神経難病、アルコール症、リウマチやアレルギーなどの政策医療を行っている施設で実習を行う予定です。今後も3カ年計画で整備する予定の施設や設備は学生のためのものであることはいまでもありませんが、横浜医療センター職員や周辺の医療機関はじめいろんな職種の方の研究会や研修および行事などにも是非使っていただきたいと思っています。

なお、学校の完成に引きつづき病院本体は平成22年3月の診療開始を目途に更新築整備計画が進めてまいります。510床の新病院は救命救急センターを根本的に再整備し、拠点病院に指定された小児救急やNICUなどの周産期医療も充実させ、急性期病院として地域の診療所や病院と緊密な連携をして、住民の方の要望に応えられる地域完結型医療を目指します。なお、完成時には横浜市より横浜市南西部の地域中核病院に指定されることになっております。

今後とも皆様のご支援、ご指導を切にお願いいたします。



就任挨拶

～新規赴任に際してのご挨拶～



手術部長 宮崎 弘志

この4月に当病院へ参りました、麻酔科の宮崎 弘志と申します。

この2年間、常勤麻酔科医が渡辺先生一名の体制でしたが、私を含め三名が着任いたします。残りの二人は若さに期待の土井 智喜、大川 卓巳と申します。

私自身はその2年間、非常勤麻酔科医としてお手伝いに上がっておりましたので、外科系病棟でお会いした方も多いと思います。私も初めて勤務する、という気が致しません。既に馴染んだ病院の様に感じられます。

横浜医療センターが急性期病院として、そして外科系、また内科系の先生方に活躍していただくためには、麻酔科がそれを支える様に頑張らねばならないと思っております。また、手術室だけにこもるのではなく、広く院内に出ていく麻酔科を目指しています。少しずつでも活動範囲を広げてフットワーク軽く、動ける麻酔科を理想にしております。

ひょこひょこあちらこちらに出没する麻酔科医、というスタンスですが、少々怪しい感じもしますねえ。

それはさておき、救急と集中治療については、まずは手術室以外で私たちがお手伝いしたい部分だと思っております。今回着任する他の2名も救急、集中治療への志向が強い麻酔科医です。

私自身はもともと救急を志望して麻酔科医になりましたが、救命センターを皮切りに、アメリカに留学したり基礎研究を手がけたり、長く一般病院にいたと思ったら突然大学に呼び戻されたり、と流される木の葉の様にここに至りました。今回は腰を落ち着けて仕事が出来ると思っております。特に新病院建設は、そうめぐり合える経験ではありません。理想の手術室、ができるかどうかは分かりませんが、それを目指して皆様と力を合わせて良いものを作りたいと考えております。

もう一点、私もインストラクターとして参加しているAHA(アメリカ心臓病学会)のBLS、ACLS(救急蘇生処置の事です)正式認定コースについてお知らせしたく存じます。心臓疾患などで心停止に至った方をいち早く蘇生させる為に行う一連の処置を、系統だった覚えやすい講習で身につけるためのコースです。6月にはまず、BLSを当院で開催しようと考えています。費用はかかりますが、医療者には必須のものと広く認識されている、最も一般的なコースです。日時が決まればまたお知らせいたします。

最後になりましたが、今後とも麻酔科に御最良のほど、お願い申し上げます。

地域医療連携 病診連携施設紹介 小雀医院

診療科目：内科・小児科・循環器科・呼吸器科・消化器科
整形外科・皮膚科・リハビリテーション科

小雀町にお住まいの患者さんでも「小雀に行く」と言うと小雀医院に行くことを意味する方もいらっしゃるほど通称小雀医院で通っておりますが、正式にはお子さんを主に診る小雀小児科医院と大人を主に診る小雀内科医院に分かれております。小雀小児科医院の医師は女性であるため女性外来として利用なさる方もいらっしゃいます。

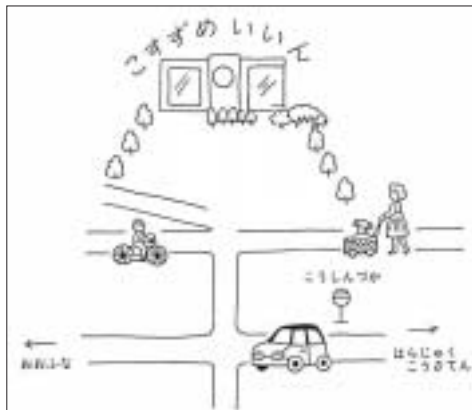
横浜医療センターは地域の中核医療を担う病院として現在の規模から予想されるものをはるかに超えた機能があると思います。それは利用なさっている患者さんが考えているもの以上と想像します。泣き所であった建物の老朽化も建て替えが始まり鬼に金棒と喜んでおります。私たちは安心して横浜医療センターの諸先生方とは以前より連携を深めております。小雀医院から高次機能病院へのご紹介の9割方は横浜医療センターがその実績です。入院が必要になった時にもCT、MRI等の専門的で高次の検査が必要になった時にも紹介患者さんを快く診ていただき感謝しております。

小雀医院にとって横浜医療センターとの一番の違いは、入院設備がないこと、予約なしで比較的短い待ち時間で診療を終え、院内でも薬を受け取れる事だと思えます。今年より駐車場も広げ21台駐車可能となりました。専門性は横浜医療センターにお願いしながら、広い角度からの診療を心がけております。高度な検査が終了なさった方、病が急性期から慢性期に入られた方等の受け入れが可能です。予約の時間拘束にお困りの方、待ち時間の短縮をご希望の方で、いわゆる家庭医をかかりつけ医とすることを考える方は主治医の先生とご相談下さい。



左側 新海 行子 小児科院長

右側 新海 毅 内科院長



小雀医院

〒244-0004 戸塚区小雀町1123-2
TEL 045-852-2353

診療科目 内科・小児科・循環器科・呼吸器科・消化器科
整形外科・皮膚科・リハビリテーション科

診療時間	月	火	水	木	金	土
8:45~12:00	○	○	○	○	○	○
14:00~17:30	○	△	○	△	○	△

休診日 日・祝祭日

地域医療連携室から

横浜市南西部地域中核病院として

経営企画室長 樋口 弥

当院は平成19年1月10日付で、市内6番目の地域中核病院に位置づけられました。

地域中核病院とは一般的にあまり聞き慣れない名称ですが、昭和50年代から横浜市が主体となって整備が進められ、その役割は人口増加や高度・救急医療など地域で不足する医療を担う、各地域の医療連携の中心となる病院のことであります。

当院が目指す方向性は、急性期医療を基盤とした質の高い総合的な専門医療を提供するとともに、関係医療機関と密接な連携をもつ地域完結型医療です。

現在、医療機能の充実を目的に、平成22年3月の病院全面建て替えに向けて取り組んでいるところですが、昨年以來、横浜市健康福祉局との地域中核病院としての位置づけに向けた協議において、横浜市が唱える政策的医療の提供と地域医療連携の強化を目的とした地域中核病院構想が当院の目指す医療と合致することから、病院全面建て替えを契機に「横浜市南西部地域中核病院」として参画させていただくこととなりました。

今後、当院が地域中核病院として位置づけられることにより、南西部における医療機関等との相互連携強化や救急医療提供体制の整備、さらに横浜市や他地域の地域中核病院との協調関係について一層の強化につながり、地域の皆様が安心かつ適切な医療を受けられる医療環境の整備に必ずや役立つと考えております。

なお、救命救急医療や小児救急医療については建て替え中であっても積極的に取り組み、地域の皆様に必要とされる急性期医療に取り組んで参ります。



お知らせコーナー

医療安全管理室より

医療安全管理係長 小林 洋子

平成18年7月に医療安全管理室勤務となり、早くも年度を締めくくる時期を迎えました。6月、11月の医療安全週間のイベントや、毎月行われる医療安全委員会での活動の他、院内パトロール・ワーキンググループ活動など、職員の協力を得ながら今日までたどり着いたところです。また神奈川県内の国立病院機構6施設の定期的な会議を通し、情報交換や研究にも取り組んできました。次年度に向けて、さらに医療安全活動の中を広げ、医療の質の向上を目指すことができると考えています。そのためには、医療安全管理者である私自身が、現場に密着し問題解決に取り組んで行くことが望まれます。その一環として先日、病棟単位で行われている月に一度の病棟会議に飛び入り参加しました（下写真）。会議の中では様々な問題が提示されるとともに、解決に向けての方法論も活発に話し合われていました。治療・看護をより安全に提供するための提案もいくつか出され、その日に決まった事項は早速、行動に移せるよう計画されます。

休日であるにも関わらず、自主的に会議に参加する職員もおり、病棟の熱心さが伝わってきました。今後は他病棟の会議への参加も行い、現場が抱える問題を一緒に考えて行こうと思います。



病棟会議風景

横浜医療センター病例検討会・研究会開催のお知らせ

西横浜整形外科症例検討会

開催日時 毎月第3木曜日 午後7時～

開催場所 当院大会議室

連絡先 日塔整形外科部長
045-851-2621（代）

横浜藤沢消化器疾患研究会

開催日時 毎月第2月曜日 午後7時～

開催場所 当院大会議室

連絡先 小松外来診療部長・松島消化器科部長
045-851-2621（代）

各症例検討会・研究会にご興味をお持ちの先生は、どなたでも参加を歓迎いたしますので、ご連絡下さい

クリティカルパス委員会の1年間の報告

過去3年間のクリティカルパス大会を顧みて

クリティカルパス委員 (前) 副看護部長 菊地 ひとみ

当院のクリティカルパス大会は2003年12月15日に第1回が開催されて以来、毎年3～4回定期的に行われてきた。クリティカルパス（以後パスとする）の作成・活用に優れている発表には「最優秀賞」を、発表技術が優れている発表者には「最優秀発表賞」を授与するという形式も第1回から続けられた。

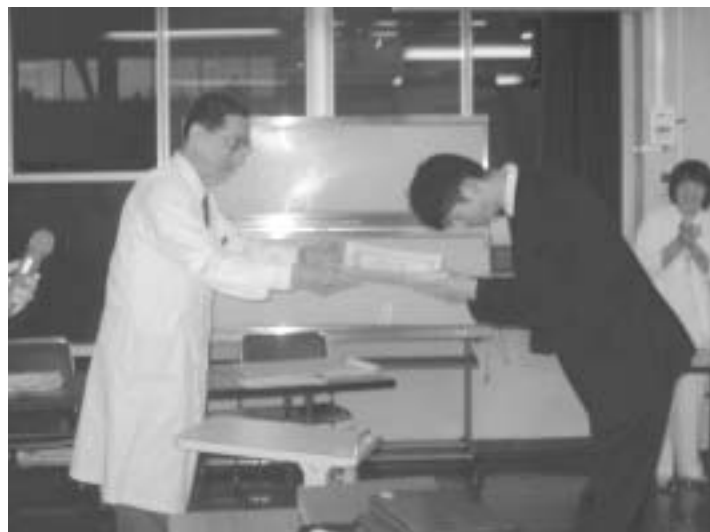
当初は、クリティカルパスの運用マニュアルに則って、とにかく新たなパスを出来るだけ作ろうと努力してきた。その甲斐あって2004年には、登録パス数が61となり、2004年12月の第4回クリティカルパス大会では、作成したパスの使用状況やバリエーション分析が主なテーマとなった。

2005年になると、各種検査のユニットパスや地域連携パスが発表され、クリティカルパスの使用が入院のみならず地域へも広がりを見せた。

2006年に実施された第8回日本医療マネジメント学会が当院主催で行われたことからパスの改訂が加速度を増し、パスは徐々に精練されてきた。パスの見直しと検討を重ねて新規作成パスと改訂パスを合わせて、2006年12月にパス数は77になった。

2006年6月にDPCが導入され、それに伴って従来のパスをDPC適応パスへと改訂することが主なテーマとなった。2006年9月に開催された第9回パス大会の最優秀賞は「DPC導入に伴う带状疱疹パスの検討」、2006年12月の第10回パス大会の最優秀賞は「DPCパスの現状」であった。

当院のクリティカルパス大会が第10回を迎えたことから、これまでの発表経過を振り返ってみた。「医療の質の向上」「バリエーションの分析」「職種間・地域との連携」「DPCへの適応」とその時々テーマは異なるが、関連職種が協力し検討してきた成果であるといえる。日々の努力に感謝したい。なお、2007年3月現在の登録パス数は85である。



第10回クリティカルパス大会 最優秀賞

発表：経営企画室

シリーズ

気になる病気

子宮癌検診のすすめ

産婦人科部長 永田 順子



日本や欧米では進行した子宮頸癌は減少してきています。これは子宮頸癌検診の普及や細胞診の診断技術の向上によるところが大きいと考えられます。日本では子宮頸癌の中では上皮内癌（最も初期の癌）の頻度が高く、全体の40%くらいになっています。上皮内癌では癌が転移したり、子宮以外に浸潤したりすることはありませんから、この時点で適切な治療をすればほぼ100%治すことができます。しかし、進行癌となりますと、なかなか治療が難しくなります。上皮内癌になる前の段階を異形成といってこれは前癌病変と考えられますが、この前癌病変も子宮癌検診で見つけることができます。なぜ、子宮頸癌になるかという、わからないこともたくさんありますが、ヒトパピローマウイルスに感染することが、ほぼ必須条件であることがわかってきました。ただし、このウイルスに感染した人がみんな癌になるのかというそうではなく、ほとんどの人は癌にはならないのです。アメリカでの最近の調査では、特に14～24歳の若い女性ではこのウイルスに感染（陰の中に）している人が25～45%もいることがわかっています。しかし、ほとんどは年齢が上がるにつれ、自然にウイルスの感染率は下がるのです。このウイルスにはたくさんのタイプがあって、その中で子宮頸癌発症と関連が高いものがあり、これに長期間感染している人は子宮頸癌になりやすいのですが、自然に消えてしまうことも多いのです。アメリカでは最近、10代の少女にこのウイルスのワクチンを接種し、前癌病変にならないようにして子宮頸癌を予防する試みが始まっています。このウイルスは性行為で伝播しますので、性行為を初めて行ってから少なくとも3年くらいから子宮癌検診を受けるのがよいとされています。また、1回の検診で異常がない場合には、検診の間隔を3年以上あけなければ進行癌になる可能性は低い、というデータから、厚生労働省は、20歳以上の女性に対し、2年間隔で子宮癌検診を行うことを推奨しています。もちろん、1回の検診では細胞が適切に採取出来ない事もあるし、卵巣などの異常を見つけることもできますから、日本産婦人科医会では、1年に1回の検診をお勧めしています。このように、検診を受けることにより、子宮頸癌の早期の発見はもちろんのこと、前癌病変も発見することができ、早めに管理、治療することにより、特殊な例を除いて子宮頸癌で死亡しないようにすることができるのです。

子宮癌検診は横浜市の指定した最寄りの産婦人科で受けることができます。また、人間ドックや職場の健診の中にも組み込まれていますので、できるだけ受けましょう。子宮頸癌で大変な思いをしないようにすることは、ちょっとした心がけで可能になるのです。



職 場 紹 介

●今回は内科／手術室の紹介です。

内 科 統括診療部長 宇治原 誠（うじはら まこと）

専門は糖尿病と内分泌疾患ですが、リウマチ・アレルギー科、消化器科、循環器科とともに総合内科・一般内科の診療も行っています。現在の担当医師は、私と、高木佐知子、今井えりか、須澤直木、松浦宏之です。この4月には新たに医師1名が仲間に加わり、6名体制となります。

医師1名で糖尿病・内分泌診療を開始した6年前の頃を思うと感慨深いものがあります。他診療科（特に循環器科、消化器科、外科）のバックアップ、西4階病棟の看護師、栄養科、薬剤科、臨床検査科、理学療法科とのチーム医療、地域の先生方のご指導で当科は成長してまいりました。6年前に立てた当科の3つの方針は、医師主導の医療を排除したチーム医療、

クリティカルパスの活用、地域の医療機関との連携診療だったのですが、現在もこれは変わりません。

今後この3本柱で、常に診療内容を吟味しながら、診療方法を再構築し、診療の質をより高めてまいりたいと思います。



筆者 前列中央

手術室 看護師長 加藤木 玉江（かとうぎ たまえ）

平成19年4月から麻酔医は4名に、看護師は5名増員となり18名、助手（委託）3名で総員25名のチームで更なる手術の増加に対応していきます。手術室は6室あり、外来手術も含め年間2500件強の手術を行っています。脳外科・外科・整形外科・産婦人科・心臓外科・泌尿器科・呼吸器外科・眼科・形成外科・口腔外科・皮膚科など顕微鏡下の手術から内視鏡下の手術と多岐に渡り緊急手術にも対応しています。麻酔は全身麻酔、部分麻酔（意識はあり痛みだけをとる）に分けられます。手術後は早期に元の生活に戻れるよう手術後の痛みを少なくする持続硬膜外麻酔と呼ばれる腰部からの麻酔や、痛みをとるための静脈注射、すっきりさめる麻酔など患者様にあった麻酔が行われています。看護師は全身麻酔の患者様には手術前に訪問し、麻酔や手術に対する不安の緩和に努めています。

手術当日は入室を担当しますのでどんなことでもお気軽にお話し下さい。繰り返しでお手数かと思いますが手術室に入られる前にお名前を名乗っていただいたり、麻酔をかけた後には主治医と麻酔医・看護師で患者様のお名前・術式を声にだして確認するなど「安全で良質の看護を提供する」ことを目標に取り組んでいます。



筆者 前列中央

診療科・曜日	月	火	水	木	金	備考
総合内科・初診	第1・3・5週消化器、 2・4週循環器	内科交代医師	松浦 宏之	関口 章子	曾我 隆義	△:午後1:00～2:00(受付時間) ▲:紹介状持参の方のみ
内 科	高木 佐知子	今井 えりか	須澤 直木	宇治原 誠(予約のみ)	注 宇治原 誠(予約のみ)	注 内科・金曜日(第2・3・4週のみ)
神 経 内 科	土井 宏	△高橋 竜哉	検査日	遠藤 雅直	検査日	
呼 吸 器 科	榎原 基史	検査日	山川 泰	検査日	榎原 基史	
消 化 器 科	交代医師	塚田 百合子	松島 昭三	前出 幸子	小松 達司	■:午後の予約のみ 《循環器科新患当番医》 (月)第1・2[田中]・第3・4・5[岩出] (火)田中・(水)岩出・(木)田中[岩出]・(金)巽
循 環 器 科	巽 藤緒	岩出 和徳	田中 直秀	▲田中 直秀	岩出 和徳	
リウマチ・アレルギー科	加藤 丈二	へースメーカー外来	検査日	■曾我 隆義	■関口 章子	
心 療 内 科	検査日	成田・鎌田	武川 吉和	検査日	検査日	完全予約制(要紹介状)で午後のみ<火曜日>奇数週(一般心身症)成田・偶数日(女性心身症)鎌田/<水曜日>(一般・小児心身症)武川
精 神 科	山口 隆之	武川 吉和	山口 隆之	成田 博之 鎌田 鮎子	武川 吉和	※月～金:新患受付は10時まで受け付けます。(要紹介状、1日2名の予約制) 但し、当該医師以外の医師が診察いたします。詳細は精神科外来にお尋ねください。
小 児 科	鈴木 陽一 神山 明美	菅井 和子 和田 芳雅	鈴木 陽一 菅井 和子	小林 慈典 大山 直孝(第1・2) 西山 綾(第3・4)	小郷 寛史(第1・2) 榎本 聡子(第3・4)	
外 科	清水 哲也 交代医師	関戸 仁 ◎土井 卓子	松田 悟郎	◎土井 卓子 ◎田辺 美樹子	◆高橋 俊毅 ◆山本 俊郎	◆:完全予約制 ◎:乳腺外来(火・木)完全予約制
呼吸器外科					坂本 和裕 山仲 一輝	ご紹介については外来日以外でも随時受け付けておりますので、直接ご連絡ください。
整 形 外 科	国府 秀俊 小椋 研 河井 卓也	日塔 寛昇 国府 秀俊 朴 圭一	国府 秀俊 河井 卓也 川島 史義	日塔 寛昇 小椋 研 朴 圭一 ※三谷 秀俊	小椋 研 川島 史義	(受付時間)初診・予約外再診とも 8:30～10:00 ※予約のみ
形 成 外 科	高瀬 税		口高瀬 税	高瀬 税	高瀬 税	□:手術日のため午前のみ
脳 神 経 外 科	急患のみ (手術日)	▲ 交代医師 ※(脳ドック)	竹本 安範 ※(脳ドック)	急患のみ (手術日)	藤津 和彦 市川 輝夫 ※(脳ドック)	▲:第1・3・5週(火)岡田 富 第2・4週(火)宮原 宏輔 ※詳細はPM1:00～5:00の間に地域医療連携室までお問い合わせください
心臓血管外科	東館 雅文	手術日	検査日	盆子原 幸宏	東館 雅文	
皮 膚 科	坪井 廣美 山本 都美 百瀬 葉子	山本 都美 百瀬 葉子	坪井 廣美 山本 都美 百瀬 葉子	坪井 廣美 山本 都美 百瀬 葉子	坪井 廣美 山本 都美 百瀬 葉子	
泌 尿 器 科	本田 直康	本田 直康	手術日	奥野 紀彦	本田 直康	
産婦人科	中村 秋彦 永田 順子	外村 光康 斎藤 / 松本	中村 秋彦 外村 光康	乗杉 輝彦 ※乗杉 輝彦	永田 順子 中村 秋彦	※ 木曜日の産科は新患、急患のみ (受付) 初診・予約外再診とも 月・水・木曜日 8:30～10:00 火・金曜日は新患(要紹介状)・急患のみとなります。8:30～9:30
眼 科	清水 康平 岡部 智子	手術日	清水 康平 岡部 智子	清水 康平 岡部 智子	手術日	
耳 鼻 咽 喉 科	深澤 雅彦	向出 光博	杉山 裕	小宅 大輔	休診	
放 射 線 科	栗原 須生美 ※注①	中山 優子 ※注②	日下部 きよ子 (甲状腺外来) ※注③		中山 優子 ※注②	※注①月曜日 8:30～11:00【完全予約制】 ※注②火・金曜日13:30～15:00【予約は内線4307まで】 ※注③診察日は放射線科にお問い合わせ下さい。
歯科口腔外科	塩入 重彰	塩入 重彰 大槻 伸江	手術日	塩入 重彰 大槻 伸江	塩入 重彰 大槻 伸江	新患は、火・木曜日の午前8:30～11:00まで、再診(完全予約制)、急患は随時受付(紹介状から直接ご連絡ください) 新患(紹介状又は、診療情報提供書を持参して下さい)【可能な限り】 詳細については歯科口腔外科部長にお問い合わせください。
小 児	喘息(鈴木・菅井) アレルギー検査 (交代医師) フォローアップ外来(福山) 第4週	腎(伊藤)※第1週 喘息(鈴木) 感染免疫(小林) 第2・4週	喘息(石田) 第2・4週 喘息(菅井) アレルギー検査 (交代医師)	乳児検診 (交代医師) フォローアップ外来(小郷)	循環器(鈴木) ※第3以外 予防接種(交代医師) 神経(武下)※第3のみ	
専門外来 (午後のみ)	横浜市乳がん検診 ※注④	癌化学療法外来	癌化学療法外来	癌化学療法外来	癌化学療法外来	※注④横浜市乳がん検診の受付:14:00～16:00乳癌検診
女性 診療 外来	※注⑤			スキンケア外来 ※第2・4週		※注⑤担当医:[外科土井・皮膚科坪井] 女性のための総合診療をめざす外来です。 産婦人科受診希望の方は直接産婦人科外来を受診してください。女性 外来では内診などは行っておりません。乳腺疾患は火・木曜日の乳腺外 来で女性医師が対応します。全人的に対応し、必要があれば心療内科 を含め複数科の女性医師が連携します。
産 婦 人 科	母親教室			母乳外来		
循 環 器 科	へースメーカー外来 ※注⑦					※注⑦ 第1・3・5週[加藤] 第2週[巽] 第4週[桜林]

初 診 受 付: 平日8:30～11:00
但し、整形外科、眼科、放射線科は上表備考のとおり
再診(予約外)受付: 平日8:30～11:00
但し、整形外科、眼科、放射線科は上表備考のとおり
休 診 日: 土曜・日曜日・祝日・12月29日～1月3日

※急患は随時受け付けます。来院前に病院にご連絡下さい。(TEL 045-851-2621)
※紹介状又は、診療情報提供書をお持ちの方は、外来受付窓口にご提示下さい。
※地域医療連携室 TEL 045-853-8355 (月～金 8:30～17:00)
TEL 045-851-2621 (時間外、土・日・祝日)
FAX 045-853-8356

お知らせ 色つき部分が変わ箇所となります。ご確認の上受診ください。

(写真右)

戸塚は江戸時代には東海道の宿場として栄えており、旅籠の数も小田原に次ぐ所で江戸より10里、小田原まで10里と中間点にあるため、江戸を朝立ちして戸塚で泊まり翌朝小田原に向かって出発するので大変賑わった町でした。
又、現在の戸塚消防署とスルガ銀行戸塚支店の間は大商店が立ち並び、旅籠や遊廊等が点在していました。

